

ツリズムEXPOジャパン 2019 大阪・関西



ツリズムEXPOジャパン推進室の早坂学室長

「オール関西」で大いなるチャレンジ インテックス大阪を中心に10月24日から4日間開催

TEJの完成モデルを地方へ展開

「ツリズムEXPOジャパン（TEJ）2019 大阪・関西」主催の日本観光振興協会（JTTA）・日本旅行業協会（JATA）・日本政府観光局（JNTO）が10月24日（木）から27日（日）までの4日間にわたり、大阪・南港北のインテックス大阪を中心に開催されます。

今年で6回目を迎えるTEJが東京以外の都市で開催されるのは、今回が初めてとなり、大阪府や大阪市だけでなく、さまざまな近畿圏の旅行会社や観光関連団体事業者をはじめ、関西の8府県と4市で構成される関西広域連合という行政レベルや関西経済連合会、関西経済同友会、大阪商工会議所といった経済界など、文字通りの「オール関西」による取り組みが動き始めているところです。

地域に根差した新たなカタチを

早坂室長によると、TEJとしては、（1）観光による地方創生、（2）地域に根差した新しいツリズムのカタチの創造、（3）ゲートウェイ・関西の魅力とパワーの再発見、という3つのポイントをテーマとして掲げ、大阪・関西での開催にチャレンジしていく方針です。

「大阪でも関西エアポートの主催による『関空旅博』が毎年、BtoCのイベントとして盛大に開催されてきているが、BtoBとBtoCが一体になったイベントとしてTEJは唯一無二の存在。日本全国における観光を通じた地域の活性化を目指すTEJが、観光振興にとって極めて大切な要素であるBtoBの要素を兼ね備えたスキームを地方に伝播する最初の場として大阪・関西を選んだ」（早坂室長）

MICEやIRも新たなテーマに

初めて東京以外の都市で開催されるTEJ2019 大阪・関西では、「高付加価値経済MICE戦略都市」への

強化を目指す大阪の取り組みを反映することが検討されているほか、昨年のTEJ2018でテーマゾーンが展開された産業観光や酒蔵ツリズム、スポーツツリズムなどについても、関西エリアとしての特性や優位性を発揮できる分野であり、全国的な広がりや地域における展開の融合を通じて、さらに表裏力やコンテンツが強化されることも期待されています。

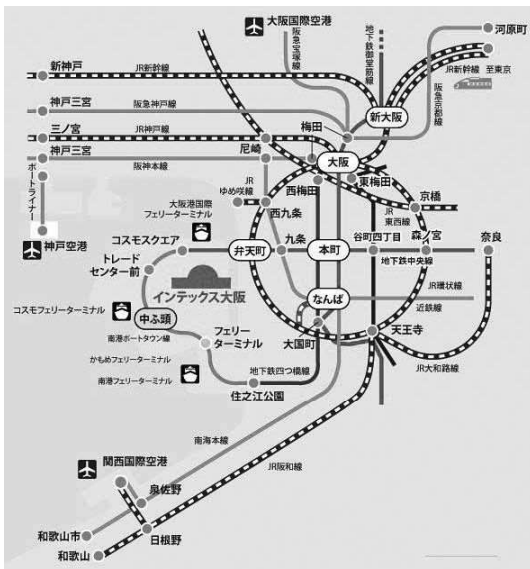
さらに、2025年国際博覧会（万博）の開催も決定している大阪では、2024年までにIR（統合型リゾート）

ト）開業を目指す動きもあることから、MICEとエンターテインメントを融合させた企画なども導入される見通しで、大阪・関西ならではの独自の魅力もアピールされることとなります。

TEJ2019 大阪・関西では、4日間にわたる期間中の来場者数を13万人と見込んでおり、東京開催で定着した首都圏におけるファン向けの旅行商品造成や、近畿圏の鉄道各社との連携による入場券を組み合わせたレールパスの発行を通じ、来場促進なども計画されています。

「大阪ベイエリア」の中核施設・インテックス大阪

国際見本市会場・インテックス大阪は1985年、関西圏の未来を拓く第一歩として大阪南港に誕生。現在は、近隣施設と連携し、大規模展示場、会議場、ホテル、レストラン・ショッピングなどが充実した複合商業施設も集積されたMICE開催地「大阪ベイエリア」の中核施設として発展、グローバルな活動を展開しています。



- 所在地：大阪市住之江区南港北1丁目5番102号
<http://www.intex-osaka.com/jp/access/>
- 電話番号：06-6612-8800
- ホームページ：<http://www.intex-osaka.com/>